



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ 11

No.651



まちひと百景

森町長より3組に出産祝金を手渡される

今年の7月より住みよいまちづくりの一環として実施されている出産祝金交付事業が、10月24日(土)に森町長、青木久美子・菊池典子主任児童委員が町内対象となる3件の家庭を訪問し、目録を贈呈した。

第1号となった古丹別在住の柴田洋匡さん、舞さんのご家庭に訪問、目録が手渡されると、柴田さん夫妻は「大変うれしく思う。子どものために大切にに使わせていただきます。」とこやかに語った。この日は苫前在住の福崎和典さん夫妻、古丹別在住の能登貴嗣さん夫妻への贈呈も行われた。

- 苫前商業高校学校開放講座ほか... 2
- 旭川凌雲高等学校吹奏楽部コンサートほか... 3
- 各学校祭・学芸会... 4
- 健康ばんざい... 5
- 学びの広場... 6
- 介護保険ガイド... 7
- 国民年金... 8
- 人事行政運営等の状況... 9~11
- 住まいる情報... 12
- 議会だよりNo.101... 13~21
- 中学生ギャラリー... 22

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口/3,335人(男/1,579人:女/1,756人)
世帯数/1,600世帯 (10月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

悪戦苦闘しながら画面に集中 ～学校開放講座パソコン入門講座～



この講座ではワープロソフト「ワード」、表計算ソフト「エクセル」の基本的な使い方を学ぶことを目的に行われ、同校教諭や公民館職員が指導にあたったが、参加者は慣れないキーボード操作やローマ字による打ち込みに悪戦苦闘しながらも、指導者を呼んでアドバイスを受け、時折テキストにメモをとるなど早く上達しようと真剣に受講する姿が印象に残った。

9月29日(火)～10月1日(木)までの3日間で苦前商業高等学校(金子義之校長)による学校開放講座パソコン入門講座(道民カレッジ連携講座)が開催され、延べ35名が参加した。

岡田裕幹教育委員長が退任。新たな教育委員長には花井秀昭さん

坂川さんは「何もわからないが先輩委員の皆さんの指導をいただきながら、お役に立てるように尽くしたい」と意気込みを述べた。

教育委員の後任には苦前在任の坂川資樹氏が任命された。重要なため、尽力してほしい」と他の委員へエールを送った。

9月30日(水)の任期満了に伴い、これまで教育委員長を務めていた岡田裕幹さんが退任されることとなり、10月1日(木)に町長室で辞令交付と感謝状の贈呈が行われた。



感謝状を贈呈される岡田裕幹さん



花井秀昭新教育委員長



辞令交付される坂川資樹さん

また、新たな教育委員長には10月1日に開催された教育委員会議において花井秀昭さんが選任された。

花井さんは平成20年から教育委員を務めているが、就任にあたり「岡田委員長のあとで責任の重さを感じている。他の委員の協力をいただきながら職務を全うしたい」と述べた。

○苦前町教育委員会教育委員長
花井 秀昭氏
委員(職務代理者)
池田 民治氏
委員 大矢根まき氏
委員 坂川 資樹氏

強風による被害が発生 ～10月1日～2日にかけての爆弾低気圧による影響～



強風により被害を受けた苦前中学校

10月1日(木)～2日(金)にかけて爆弾低気圧による被害が本町でも発生した。1日に気象庁より情報もたらされたため、町では防災無線や広報車により注意喚起と同時に町内3ヶ所に避難所を設け、同日午後4時から避難所への受け入れを開始した。

翌2日には苦前中学校校舎や力昼神社、民家の屋根が飛散するなどの被害が発生、高波の影響などにより国道232号線の上下線が通行止めになるなど交通機関にも影響が出た。

避難所となった力昼生活館や福祉センターには海岸沿いの住民など計30世帯44名が避難し、炊き出しを受けるなど慣れない場所で一夜を過ごした。

翌3日朝には、風雨も弱まり避難していた住民全員が帰宅、午後3時には国道全線が開通した。



国道にも波が打ち上げられるほどの強風



パソコンへの登録は
<https://cous.mail-dpt.jp/tomamae/>
のURLよりできます。

町では気象情報や避難情報などの提供を行うために、メール配信サービスを実施しているため、この機会に登録を呼びかけている。
携帯電話からは左のQRコードを読み込むことで登録できます。

迫力ある演奏に感動！～旭川凌雲高等学校吹奏楽部コンサート～



10月4日(日)公民館でとままえ舞台鑑賞友の会(松岡満雄会長)主催の旭川凌雲高等学校吹奏楽部コンサートが開催され、町民はもちろん近隣の町村や中学生、高校生などの吹奏楽部員など約260名が生の演奏を楽しんだ。コンサートでは約70名の同校部員がステージいっぱいに並び、アルヴァーマ序曲など吹奏楽曲の第一部、ダンスメドレーの第二部、歌謡曲や合唱などの第三部の構成で演奏を披露した。

来場者は迫力ある演奏、元気いっぱいのダンス、きれいな合唱などの迫力あるステージを楽しみ、演奏者におしめない拍手を贈っていた。

事件から100年、くま獅子保存会による追悼法要が執り行われる

大正4年の事件から100年を迎えることから、町くま獅子保存会(川森光治会長)が発願人となり、10月15日(木)に三毛別ヒゲマ事件復元地で追悼法要が執り行われ、約30名が犠牲者の冥福を祈った。

合掌した後、広田寺の松岡満雄住職が「先人の開拓のご苦労を偲びつこの事件を教訓とし、命あるもの全てが大地を共有し、平等の道を歩まんとを誓います」と、同保存会を代表し松浦有恒さんも「被害に遭われた方々、開拓にご苦労された全ての方々に感謝を捧げ、事件を忘れず命の尊さを思い、開拓の精神を受け伝えていきます」と追悼の言葉を述べた。



新苔前町史完成記念講演会が開催 ～町史監修者の関秀志さんが講演～



新苔前町史完成を記念した講演会が公民館で開催、地域住民など50名が参加した。新苔前町史の監修者を務めた関秀志さんが講師として「苔前町における集落のなりたち」と題して講演が行われた。

苔前地方に人が住み始めた約6千年前から現代までの集落の変遷について話され、「最初の集落は古丹別川川口北岸付近で、アイヌ時代には栖原家が苔前場所を松前藩から請け負い、苔前に運上屋を設けたのをきっかけに海岸地域に大きな集落群が形成された」と話した。

本町の人口減少が続いていることに対しては「先人がどのように集落を形成し、新たな社会を作ったかの過程を振り返ることで、何かヒントになるかもしれない」と述べた。

地域社会貢献事業 まちの施設を整備していただきました

港地区の海岸浸食防止作業 ～萌州建設株式会社～

苔前漁港海岸高潮対策工事を実施の留萌市の萌州建設株式会社(畑中修平代表取締役)が10月1日(木)に港地区の海岸浸食防止作業を地域社会貢献事業として実施した。

同地区は荒天時や冬期間などには高波の影響から、ときには住宅近くまで水が押し寄せするなど対応に苦慮していましたが、大型の土のうの作製と設置を行っていただいたお陰で、今後は波による影響が少なくなるものと思われます。

ありがとうございました。



爆弾低気圧による苔前中学校の被害への対応 ～苔前建設協会～



爆弾低気圧により被害を受けた苔前中学校多目的ホールの剥がれた屋根部分の撤去及びそれに伴う飛散物の処理を苔前建設協会(渡部一男会長)が、10月4日(日)に地域社会貢献事業として実施した。

当日は同協会会員約40名、車両4台などにより剥がれた屋根の残骸や近辺に散らばった飛散物の撤去を行っていただいたお陰できれいに片付けることができました。

ありがとうございました。